

新東方前途日本語学校
自己点検・評価項目

点検対象月 2025 年 4 月～2026 年 3 月
報告書作成月 2026 年 6 月

認定日本語教育機関のための自己点検・評価項目について

この点検・評価項目は、新東方前途日本語学校が自己点検・評価を行う際に設定する項目として作成したものである。

【自己点検・評価の方法】

1. 点検評価に当たっては、校長を評価委員長とした評価委員会を組織し、評価担当者から提出された各項目の評価について検討し、合意形成の上で評価委員長が最終決定を行う。
2. 評価は毎年1回3月に行うものとする。
3. 各項目の評価担当者を以下の通りとする。

項目	評価担当者					
	設置者	校長	主任教員	本務等教員	事務長	事務職員
1. 理念・教育目標		○				
2. 学校運営		○				
3. 情報公開						○
4. 入学者の募集と選考					○	
5. 教育活動			○			
6. 教職員育成			○			
7. 学生支援					○	
8. 卒業の認定及び学習の成果		○				
9. 施設・設備	○					
10. 地域貢献・社会貢献				○		
11. 財務	○					

4. 評価担当者は、担当項目について別紙にある評価対象を点検評価し、評価および課題、改善策を記入した点検表をエビデンスとともに評価委員長に提出する。

評価は必要に応じて、専門家(顧問税理士等)や外部の関係者(専門学校や地域住民等)からの意見も参考にして評価するものとする。

運営状況および現状を「評価項目」として示す小項目ごとに点検、評価する。結果は、以下のようにより A, B, C で記載する。

- A: 当該項目が「達成されている」、もしくは「適合している」場合
 B: 当該項目が「一部未達成」であるが今年度中に達成もしくは適合が確実な場合
 C: 当該項目が「未達成」、もしくは「適合していない」場合
5. 課題・改善案などがあれば、指定の枠内に記入する。

【自己点検・評価後の改善プロセスについて】

自己点検・評価後、その結果を受けて、校長は、主任教員、事務局長、及び本務等教員を2名と「改善委員会」を設置する。改善委員会は校長を議長とし、以下のプロセスで自己点検評価後の改善を行う。

2名の本務等教員は、校長が年度ごとに指名する。

①点検結果の分類

点検結果が、B、C判定となった項目の内、「即時対応が必要なもの（法令違反、基準未達）」と「中長期的に取り組むべきもの（質の向上）」に分類する。

②改善計画書の作成

「改善計画書」は、点検結果の課題・改善案を基に、改善項目ごとに、具体的な対策内容、対策を遂行する担当者、その期限を設定する。改善計画はできるだけ数値目標化する。
また、改善委員会の会議は議事録を作成し記録を残しておく。

③現場へのフィードバック

自己点検の結果と改善計画書を教員会議で共有する。またホームページ上で自己点検結果を公表する。

④改善の進捗を確認

改善委員会は、改善計画書を作成した3か月後に、下記を確認、検討する。

1. 計画通りのスケジュールで改善が進んでいるか
2. 数値目標をどれほど達成しているか
3. 改善の実行が困難になっていないか。その場合、リソース（人員・予算）再配分などを検討する。

以後、3か月ごとに④のプロセスを繰り返す。

【実施スケジュール】

時期	内容	担当者
3月	点検・評価	評価担当者
3月～4月	点検表提出	評価担当者
3月～4月	改善委員会会議	校長、主任教員、事務を統括する職員、及び本務教員2名
5月	点検評価内容公表	事務を統括する職員
6月	改善計画書の作成、公表	校長、主任教員、事務を統括する職員、及び本務教員2名
8月	改善の進捗確認	校長、主任教員、事務を統括する職員、及び本務教員2名

評価項目 1 教育の理念・目標と、その具体化のための方策

新東方前途日本語学校の理念

<理念>

本校は、言語を相互理解とコミュニケーションの基盤であると考え、日本語教育を通じて学生の視野を広げ、多様性を理解し、尊重する姿勢を育成します。さらに、日本という国への理解を深め、日本の文化・社会・価値観を柔軟に学び、身につけることのできる人材の育成を目指します。また、アクティブラーニングを取り入れた学びを通じて、主体的に考え、交流し、実践的に日本語を理解する力を養います。そして、多様性を受け入れながら、社会で活躍できる人材を育成します。

<目的>

本校では、基本的な日本語能力を確実に身につけるとともに、自ら考え、主体的に学び続ける姿勢を養います。日本語を単なる知識として学ぶだけではなく、日本文化や礼儀、社会背景への理解も深めながら、多様な文化や価値観を尊重し、相手と円滑にコミュニケーションできる力を高めます。また、大学・専門学校等への進学を目指す学生が、それぞれの目標を実現できるよう、進学に必要な日本語能力と学習の基礎力を身につけるための教育を行います。

こうした学びにアクティブラーニングを取り入れ、自ら考え、仲間と対話し、自分の考えを日本語で発信する経験を重ねることで、進学後や社会においても自ら考え、行動し、実践的に日本語を活用できる力を培います。

<目標>

本校では、「日本語教育の参照枠」に示される5つの言語活動をバランスよく身につけ、日常生活や学習場面において自立して日本語を運用できる力を培います。また、日本の文化や社会について、その背景を含めて学び、自文化との違いを認識しながら、「日本」という国への理解を深めます。

さらに、課題発見・課題解決型の学習やアクティブラーニングを通じて、自ら考え、判断し、行動する主体的な学習姿勢を身につけるとともに、進学後の学習や研究に対応できる論理的思考力と、アカデミックな場面で必要となる日本語運用能力を高めます。

進路選択においては、大学だけでなく専門学校等も含めた幅広い選択肢への理解を深め、自身の目標や適性に応じて進路を選択し、その実現に向けて主体的に取り組む力を養います。

新東方前途日本語学校の教育目標

本校では、「日本語教育の参照枠」に示される5つの言語活動をバランスよく身につけ、日常生活や学習場面において自立して日本語を運用できる力を培います。また、日本の文化や社会について、その背景を含めて学び、自文化との違いを認識しながら、「日本」という国への理解を深めます。

さらに、課題発見・課題解決型の学習やアクティブラーニングを通じて、自ら考え、判断し、行動する主体的な学習姿勢を身につけるとともに、進学後の学習や研究に対応できる論理的思考力と、アカデミックな場面で必要となる日本語運用能力を高めます。

進路選択においては、大学だけでなく専門学校等も含めた幅広い選択肢への理解を深め、自身の目標や適性に応じて進路を選択し、その実現に向けて主体的に取り組む力を養います。

[B] 理念・教育目標が教職員、学生に周知されている。

[B] 目的が達成されている。

[A] 教育目標が達成されている。

課題・改善案等

教育理念・教育目標については一定の周知を行っているが、教職員及び学生への理解・浸透状況を確認する仕組みに課題がある。今年度中に、教職員会議・研修、学生オリエンテーション等で定期的に確認・周知する体制を整える。

また、教育目的の達成状況について、学習成果、進学状況、学生アンケート等を活用した検証方法を整理し、年度内に定期的な確認体制を構築する。教育目標については概ね達成されており、今後も継続して点検・見直しを行う。

評価項目2 日本語教育機関の運営

[B] 認定日本語教育機関認定基準に適合していることを年1回以上確認している。

[A] 校長、主任教員、本務等教員、教員、事務局長、事務職員の職務内容及び責任と権限を確に定め、かつ、教職員間で周知されている。

[B] 管理、運営のための諸規程を整備し、規定に基づいた運営が効果を上げている。

[A] 予算編成が適切になされ、明確なルールにより執行している。

[B] 機関の短期及び中長期目標が教職員間で周知されている。

[B] 運営や教育活動に必要な情報を教職員間で共有する仕組みがあり、機能している。

[A] コンプライアンス意識向上のため担当者を定めて取組を行い、効果が出ている。

[A] 関係官庁への届出、報告を遅滞なく行っている。

認定日本語教育機関認定基準への適合状況について、年1回以上の定期的な確認時期・方法を定め、結果を記録・共有する体制を整える。

また、学校運営に関する諸規程について、実際の運用状況を定期的に確認し、必要に応じて見直しを行う。短期・中長期の機関目標についても、年度ごとの重点目標と達成状況を明確にし、進捗確認を行う。

教職員間の情報共有については、会議や連絡ツールの運用方法を整理し、必要な情報が確実に共有される仕組みを整備する。

評価項目3 情報公開

- [A] 認定日本語教育機関の設置者の氏名及び住所、認定日本語教育機関の名称及び所在地、日本語教育課程の授業科目及びその内容、生徒、教員及び職員の数、授業料その他の認定日本語教育機関が徴収する費用、学則、教育内容、定員、をホームページ等で公開している。
- [A] 募集及び納付金に関する情報を公開している。
- [A] 入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。
- [B] 情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている。
- [B] 公開されている情報は常に最新のものに更新されている。

ホームページ等において必要な情報は公開しているが、一部については掲載場所や構成が分かりにくいため、公開情報の整理を行い、必要な情報に容易にアクセスできるよう改善する。

また、公開情報の更新について、担当者及び確認時期を明確にし、定期的に掲載内容を点検・更新することで、常に最新の情報を提供できる管理体制を整える。

評価項目4 入学者の募集と選考

- [A] 教育目標に合致した募集計画を立案し、募集地域や対象者を定めて募集活動を行っている。
- [A] 機関所属の職員が入学希望者に対して情報提供や入学相談を行っている。
- [A] 海外の募集代理人に最新かつ正確な情報提供を行っている。
- [A] 海外の募集代理人の適切性を確認し、募集活動を具体的な情報により把握している。
- [B] 受け入れる課程の教育内容が入学志願者のニーズと合致することを確認している。
- [A] 入学選考基準及び方法が定められ、適切な体制で入学選考を行っている。
- [A] 入学志願者の学習能力、学習意欲、日本語能力等を確認している。
- [A] 入学志願者の情報を正確に把握し、提出された根拠資料で確認している。
- [A] 不法残留者を多く発生させている国からの志願者には機関所属職員が面接等の調査を行っている。

入学志願者の希望進路や学習目的等については、入学相談や面接等を通じて確認しているが、その内容を教育課程との適合性の確認に活用する仕組みが十分に整理されていない。今後は、入学志願者のニーズを継続的に把握・整理し、教育課程の内容と合致しているかを定期的に確認するとともに、必要に応じて募集時の情報提供や教育内容の見直しに反映する体制を整える。

評価項目 5 教育活動

- [A] 教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。
- [A] 理念と教育目標達成のためのカリキュラムを編成している。
- [A] 学生の熟達度を、特定の試験の成績だけで判定するのではなく、「日本語教育の参照枠」の枠組みの中に位置づけて理解する試みを行っている。
- [A] 理念及び教育目標に適合した教材が選択、又は制作されている。
- [A] 教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。
- [A] 教育活動の計画が教員全体に周知されている。
- [B] 学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。
- [A] 当該学期の学習内容及び学習予定等を学生に開示している。
- [A] 出席簿を備え、正確に記録している。教育活動の振り返りと改善に活かせるような形で授業記録簿を残し、記録内容を関係教員間で共有している。
- [A] 学習成績の判定基準及び方法が定められ開示されている。また判定結果を的確に学生に伝えている。
- [B] 授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。
- [B] 検証のための体制、方法及び評価の基準を定めている。
- [A] 学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。
- [B] 「～を実施している」ことの確認だけでなく、「それが実際に効果を上げているか」を、根拠に基づき確認できるような評価システムとなっている。
- [B] 評価結果が教育内容や方法等のプログラム改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。
- [A] 評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。

学生の日本語能力については、試験結果等をもとに把握しクラス編成を行っているが、判定基準及び編成への反映方法をより明確にする必要がある。

また、教育活動全体の検証について、実施時期、担当者、方法及び評価基準を整理し、定期的に検証する体制を整える。学生アンケート等による多角的な評価も活用し、教育活動を実施したかどうかだけでなく、学習成果や教育効果を確認できる仕組みを構築する。

検証結果については、授業内容・教育方法・カリキュラムの改善及び教員研修等に反映し、継続的な教育の質の向上につなげる。

評価項目 6 教職員育成

- [B] 教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。
- [A] 教育目標達成に必要な教職員の能力及び資質を明示している。
- [B] 新入社員、新任教員、中堅教員を対象とし、明示された「必要な能力・資質」を向上させることを目的とした研修を実施している。
- [A] 経験を問わず、所属する教職員を対象に、振り返りの機会を設け、情報の共有や成果の確認を行っている。
- [A] 他機関の実施する研修会等への参加を促している。
- [A] 教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。
- [A] 教職員評価のための体制、方法及び評価の基準を定めて、開示している。
- [A] 上位者からの評価だけでなく、自己評価、相互評価、学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。
- [A] 評価結果を的確に教員に伝え、それが教員の能力・資質の向上に結び付いている。
- [B] 評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。

課題・改善案等

教職員の教育力及び学生支援力の向上に向けた研修等は実施しているが、経験年数や役割に応じた育成体系について、さらに整理する必要がある。今後は、新任教員・中堅教員等の段階に応じた研修内容及び実施時期を明確にし、年間を通じた計画的な教職員育成を行う。

また、教員評価については多面的な評価を実施しているため、評価結果を研修や個別の能力向上に活用するとともに、評価項目・方法についても定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う仕組み

評価項目 7 学生支援

- [B] 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。
- [A] 留学生活に関するオリエンテーションを定期的の実施し、その効果を確認している。
- [A] 留学生活に関する生活指導担当者が特定され、周知されている。
- [B] 日本社会、日本文化を理解するための活動を行っている。
- [A] 進路指導を適切に行っている。
- [A] 進路指導担当者が特定されている。
- [B] 学生の希望する進路を随時把握し、入学時から一貫した指導をしている。
- [A] 進学及び就職に関する資料や情報を収集し、学生に提供している。
- [A] 卒業後の進路を把握している。
- [A] 安全な留学生活を送るための適切な取組をしている。
- [A] 健康、衛生面について指導する体制を整えている。
- [A] 火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法等を定め、防災訓練を定期的の実施している。
- [A] 必要な場合は母語等による支援体制を整えることができている。
- [A] 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。
- [A] 入管法上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。
- [A] 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者を発生させないための取組を継続的に行い、発生を防いでいる。

課題・改善案等

日本社会・日本文化への理解を深め、社会の一員として活動する力を養うための取組について、授業内外での活動内容や実施機会を整理し、年間を通じて計画的に実施する。また、活動後の振り返り等を取り入れ、その成果を確認できる仕組みを整える。

進路指導については、学生の希望進路を入学時から継続的に把握・記録し、進路希望の変化や学習状況を教職員間で共有することで、卒業まで一貫した指導を行える体制を整備する。

評価項目 8 卒業の認定及び学習の成果

- [A] 卒業認定基準が策定され、整合性がある。
- [A] 卒業・修了の要件（出席率、成績習得単位数等）が学則等に明文化され合理的な内容となっている。
- [A] 課程の目的に応じた到達目標と修了の要件が整合している。
- [A] 卒業認定基準が学生へ周知されている。
- [A] 募集要項やオリエンテーション等で、入学時に学生に対して卒業基準が明確に説明されている。
- [B] 学習成果の評価指標に客観性、妥当性がある。
- [A] 学習成果の判定に、参照枠などの客観的な指標が導入されている。
- [A] 定期試験（筆記）だけでなく、口頭発表、ライティング、ポートフォリオ等、技能ごとに多面的な評価を行っている。
- [A] 成績評価を厳格に運用している。
- [A] 各科目の成績評価基準が明確で、採点結果および算出根拠となる資料が適切に保存されている。
- [A] 成績不振者や卒業基準に達しない学生に対し、補習や面談などの指導記録が残されている。
- [A] 卒業判定が特定の教員の主観に依らず、判定会議（教務会議等）を経て組織的に行われている。

課題・改善案等

学習成果については、定期試験、口頭発表、ライティング、ポートフォリオ等の複数の方法により評価しているが、評価指標の客観性及び妥当性をより明確にする必要がある。今後は、各科目・各技能の到達目標と評価基準との対応を整理するとともに、ルーブリックや採点基準を明確化し、教員間で評価基準を共有する。あわせて、評価結果を定期的に検証し、必要に応じて評価方法・基準の見直しを行う。

評価項目 9 施設・設備

- [B] 語学学習に適した施設・設備である。
- [B] 教室内は十分な照度があり換気がなされているとともに、必要な遮音性が保たれている。
- [A] 視聴覚教材を活用した授業が可能な教育用機器及び設備が備わっている。
- [B] 授業時間外に自習できるスペースおよびリソースを提供している。
- [B] 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対応を行っている。
- [A] 法令上必要な設備等を備えている。
- [B] 廊下、階段等は緊急時に危険のない形状である。
- [B] バリアフリー対策を施している。

課題・改善案等

学習環境について、教室の採光・換気・遮音性、机・椅子の配置及び自習スペース等を改めて点検し、学生数や教育活動に応じた環境整備を進める。また、廊下・階段等について安全面から確認を行い、避難経路の確保や障害物の除去等、緊急時にも安全に移動できる環境を整える。バリアフリーについても施設状況を確認し、必要な環境整備及び運用上の対応を進める。

評価項目 10 地域貢献・社会貢献

- [C] 地域貢献、社会貢献となる活動を行っている。
- [C] お祭りへの参加など地域の人々との交流活動を行っている。
- [B] 地域における日本語教育等を積極的に行っている。

課題・改善案等

評価項目 11 財務

- [A] 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。
- [A] 財務状況は、中長期的に安定している。
- [A] 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。
- [A] 適正な会計監査が実施されている。
- [A] 生徒一人当たりについて支払う仲介手数料等の費用の額が、新東方前途日本語学校が生徒から徴収する授業料等の額と比較して相当程度高額でない。
- [A] 学生が紹介機関に支払う仲介手数料の適正性が保たれている。

課題・改善案等

現時点で特段の課題はない。今後も適切な財務状況を維持するため、収支状況及び予算執行状況を定期的に確認するとともに、適正な会計処理及び監査を継続して実施する。

以上